

(別添参考1)

第5回世界水フォーラムについて

1. 期間 2009年3月16日(月)～22日(日)
2. 場所 トルコ共和国イスタンブール市
3. 主催 世界水会議、トルコ政府、イスタンブール市など
4. 参加者数 約20,000人(想定)
5. 基本テーマ 水問題解決のための架け橋 (Bridging Divides for Water)
6. 主な構成
 - (1) テーマプロセス (Thematic Process)

6のテーマ、23のトピックに沿い、全体で約100のセッション(分科会)を開催

[テーマ]

 1. 地球規模の変化と危機管理 (Global Changes & Risk Management)
 2. 人間の発展の促進とミレニアム開発目標 (Advancing Human Development and the MDGs)
 3. 人間と環境のニーズに応えるための水資源と水供給システムの管理と保全 (Managing and Protecting Water Resources and their Supply Systems to Meet Human and Environment Needs)
 4. ガバナンスと管理 (Governance and Management)
 5. 資金調達 (Finance)
 6. 教育、知識と能力開発 (Education Knowledge and Capacity Building)
 - (2) 政治プロセス (Political Process)

気候変動を含む地球規模の変化への水管理適応戦略 (Water Management Adaptation Strategies for Global Changes, including Climate Change/Variability) をテーマに、首脳級、閣僚級、国会議員、地方自治体の会議を開催
 - (3) ハイレベルパネル
特に重要な5のテーマについて開催
・水と災害 ・資金調達 ・水、食料とエネルギー ・衛生 ・気候変動への適応
※「水と災害」は、国連「水と衛生に関する諮問委員会(名誉総裁は皇太子殿下)」が纏めた橋本行動計画に基づき設立されたもの。3月17日(火)に開催。
 - (4) 地域プロセス (Regional Process)

世界を4地域と3特別地域に分けて、地域の行動に焦点

 - ・4地域 : アフリカ、アメリカ、アジア・太平洋、ヨーロッパ
 - ・3特別地域: トルコ、地中海、アラブ諸国

※アジア・太平洋地域では、アジア太平洋水フォーラム(会長は森喜朗・日本水フォーラム会長)が中心となって、3月20日(金)にセッションを開催
 - (5) その他サイドイベントなど
 - サイドイベント
公式プログラムとは別に公開あるいは非公開で行うイベント。
 - 水 EXPO (Water EXPO)、水フェア (Water Fair)
水関連の様々な活動やサービス、製品などを紹介、19ヶ国、220団体が出展を予定
エキスポは8,000m²の会場で、日本パビリオンは、216 m²のスペースに20団体が出展予定
 - 水関連賞の授与式
ハッサン二世水対象、トルコ首相水対象、“メキシコの約束”水賞、京都世界大賞

○開会式・閉会式

○その他

第3回子ども世界水フォーラムが3月12日（木）から17日（火）の日程で開催予定であり、日本からは6名の子どもが参加予定。
世界ユース水フォーラムには、日本から大学生等が参加予定

7. 過去の開催経緯

(1) 第1回世界水フォーラム

○期 間：1997年3月21（金）～22日（土）

○場 所：モロッコ（マラケシュ）

○参加者：5ヶ国の大臣6名を含め、63ヶ国500名超が参加。我が国政府からは国土庁水源地域対策課長が参加。

○概 要：「マラケッシュ宣言」の採択。「21世紀における世界の水と生命と環境に関するビジョン（世界水ビジョン）」の策定を決定。

(2) 第2回世界水フォーラム

○期 間：2000年3月17日（金）～22日（水）

○場 所：オランダ（ハーグ）

○参加者：114名の閣僚を含む約4,600名が参加。

閣僚級会議に岸田文雄・建設政務次官（当時）が出席し、「水に関する危機管理」の分科会において、日本の河川流域での危機管理への取り組み等を紹介

○概 要：本会議で、世界の水問題に関して国際社会に解決策を提言する「世界水ビジョン」が発表された。閣僚級会合では、水問題に関する共通認識と今後の決意を表した閣僚宣言（ハーグ宣言）を採択した。（第2回より閣僚級会合を開催）

(3) 第3回世界水フォーラム

○期 間：2003年3月16日（日）～23日（日）

○場 所：日本（京都、滋賀、大阪）

○参加者：約130名の閣僚を含む183の国・地域から24,000名超が参加。

閣僚級会合には、170の国・地域と47の政府間及びその他の組織から、約130名の閣僚級を含めた約1,300名が出席。

○概 要：閣僚級会合（議長は扇国交大臣（当時））では、閣僚宣言と各国や国際機関が自主的に取り組むべき約500件の行動を取り纏めた水行動集（PWA）を発表。フォーラムの閉会式では、皇太子同妃殿下御臨席の下、中馬弘毅国土交通副大臣（当時）が日本政府を代表して閣僚級国際会議の報告を行った。

(4) 第4回世界水フォーラム

○期 間：2006年3月16日（木）～22日（水）

○場 所：メキシコ（メキシコシティ）

○参加者：78名の閣僚を含む149の国・地域から19,766名が参加。日本政府からは江崎国交副大臣（当時）が参加。

○概 要：閣僚級会合にて、第3回世界水フォーラムの機会に日本政府が立ち上げた水行動集（PWA）のウェブサイト、国連のデータベース（CSD-WAND）として統合することになった。江崎副大臣はこの立ち上げ式典に参加し、日本の貢献について報告。

	3月16日(月)		3月17日(火)		3月18日(水)		3月19日(木)		3月20日(金)		3月21日(土)		3月23日(日)	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
式典	開会式	MIRM ミイラウシ 閉会式												閉会式
テーマプロセス		テーマ 全体会合												
				テーマ1:地球規模の変化と危機管理			テーマ1	テーマ1 まとめ						
							テーマ2:人間の発展の促進とミレニアム開発目標				テーマ2 まとめ			
									テーマ3:人間と環境のニーズに応えるための水資源と水供給システムの管理と保全			テーマ3 まとめ		
			テーマ4:ガバナンスと管理				テーマ4	テーマ4 まとめ						
					テーマ5:資金調達				テーマ5 まとめ					
									テーマ6:教育、知識と能力開発				テーマ6 まとめ	
(国交省関係セッション)			舟運 セッション	水関連 災害			大規模 自然災害 危機管理							
(国交省関係トピック)			災害管理トピック											
政治プロセス		首脳級 サミット	閣僚級会合高官級会議							閣僚級 会合 閉会式	閣僚、 国会議員、 地方自治 体対話	閣僚級円卓会議	閣僚級会合 閉会式	
			国会議員				国会 議員							
			地方自治体				地方 自治 体							
地域プロセス		アメリカ	ヨーロッパ	アフリカ	トルコ周辺諸国	地中海諸国	アラブ諸国	アジア・太平洋						
ハイレベルパネル		水と災害	資金調達	水、食料 とエネルギー	衛生		気候変動 への適応 (地域)		気候変動 への適応 (閣僚級)					
サイドイベント							MIRM ミイラウシ					国際洪水 ミイラウシ		
(国交省関係会合)									日中韓閣 僚級会合					

(別添参考 2)

金子副大臣の出張日程(予定)

- 3月18日(水) 出発、イスタンブール着
- 19日(木) 特別セッション「大規模自然災害に対する水インフラ・プロジェクトの危機管理」
- 20日(金) 閣僚級国際会合
日中韓閣僚級会合
河川流域単位の総合水資源管理ガイドライン・サイドイベント
- 21日(土) 閣僚級国際会合
- 22日(日) 閣僚級国際会合。イスタンブール発
- 23日(月) 帰国

(別添参考 3)

「河川流域単位の総合水資源管理ガイドライン発表式」の概要

1. 日時：3月16日（月）12:15～13:25
2. 場所：アイバンサライ（ストウルジェ会場）
3. 主催：ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）
共催 国土交通省
4. 次第（案）
 - 12:15 開会
「総合水資源管理ガイドライン」贈呈セレモニー
松浦晃一郎事務局長による挨拶
トルコ水電力庁コカケール長官による挨拶
「総合水資源管理ガイドラインについて」プレゼンテーション
（総合水資源管理ガイドライン運営委員会 太田信介共同議長）
休憩
流域管理の事例紹介
閉会の辞（ユージン・スタキフ共同議長）
 - 13:25 閉会

5. 「河川流域における総合水資源管理のためのガイドライン」について

(1) 概要

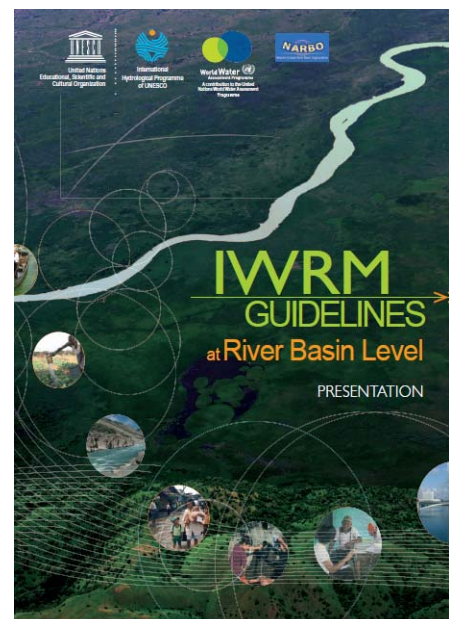
- ・ユネスコは、実務者向けの手引きとなる「河川流域における総合水資源管理のためのガイドライン」（以下、「ガイドライン」）を作成中。
- ・3月16日（月）「総合水資源管理ガイドライン発表式典」で発表。
- ・国土交通省及び水資源機構は、わが国をはじめとする経験や知識の提供等を通じて、ガイドラインの作成を支援。総合水資源管理ガイドライン運営委員会の共同議長を担当。

(2) 特長

- ・途上国等の現場が IWRM（総合水資源管理）を導入する際、すぐに活用できる実用書作り。
- ・水循環の基本単位となる河川流域レベルの活動に焦点。
- ・調整者の視点だけでなく調整される立場に立った実用書。
- ・IWRM が一定のプロセスを経て問題が解決したあとも、さらに IWRM を繰り返し流域全体をよりよくする“IWRM スパイラル”概念を提唱。

(3) ガイドラインの今後

- ・「アジア流域組織ネットワーク」（NARBO）などは、実務者を対象とした研修でガイドラインを活用予定。
- ・今後も改良・拡充を継続。



6. 総合水資源管理 (IWRM: Integrated Water Resources Management) について

(1) 「総合水資源管理 (以下「IWRM」と記す)」は、水資源を開発、管理する上で有効な手法として国際的に認識されており、水と衛生の問題を解決するための有効なプロセスとして、2002年の持続可能な開発に関する世界首脳会議 (ヨハネスブルグ・サミット) において、「2005年までに各国政府はIWRM計画を作成する」ことが国際合意事項となっている。

(2) 世界水パートナーシップ (Global Water Partnership : GWP) は、IWRMを「水や土地、その他関連資源の調整を図りながら開発・管理していくプロセス。その目的は欠かすことのできない生態系の持続発展性を損なうことなく、結果として生じる経済的・社会的福利を公平な方法で最大限にまで増大させること」と定義している。

*GWP : 世界のIWRMの普及をリードするために1996年に設立された機関

(3) 昨年5月に開催された国連の持続可能な委員会第16会期において、国連水関連機関調整委員会 (UN-Water) は、各国のIWRMの取り組み状況について行った調査結果に基づき、計画策定には一定の進展が見られるものの、さらなる取り組みが必要であるとの認識を示した。

(別添参考 4)

特別セッション 舟運：持続可能な将来に向けて

1. 日時：2009年3月17日 15:00～18:00
2. 場所：フェスハーネ／ホール3
3. 主催：国際航路協会(PIANC)
4. 共催：国土交通省、国際協力機構(JICA)、米国陸軍工兵隊
5. 概要：舟運が、省エネルギーで持続可能な輸送システムの構築と気候変動の緩和にどのように貢献できるのかについて、舟運に関わる各国の研究者や行政関係者が各地における活用状況等について報告を行うとともに、今後の更なる活用に向けた議論を行う。
6. プログラム [司会進行：PIANC Eric Van den Eede 会長]
 - (1)開会挨拶(5分+5分=10分)

PIANC：Eric Van den Eede 会長
国土交通省：中尾成邦 技術総括審議官
 - (2)発表(15分×8人=120分)
 - 1)PIANC 環境委員会：Harald Koethe 議長
持続可能な発展に向けた内陸水運の活用
 - 2)ドナウ川委員会(セルビア国立航海公社)：Zaneta Ostojic-Barjaktarevic 課長
持続可能な水路の整備とバルカン半島の和解
 - 3)メコン川委員会(タイ国運輸省)：Thanatip Jantarapakde チーフ
最小限のインフラ整備による持続可能な水路整備におけるメコン川委員会の役割
 - 4)コンゴ川委員会：Benjamin Ndala 事務局長
コンゴ川における水運
 - <休憩 10分>
 - 5)ライン川委員会：Gernot Pauli チーフエンジニア
ライン川委員会の歴史と内陸水運による持続可能な経済発展
 - 6)米国陸軍工兵隊：Robert A. Pietrowsky 水資源研究所長
舟運を活用したアメリカの貨物輸送システム
 - 7)カルカッタ建設環境センター：Sobhanlal Bonnerjee 事務局長
ガンジス川の活用によるカルカッタの活性化
 - 8)横浜国立大学：池田龍彦 教授
アジアにおける舟運の役割
- (3)議論(35分)
- (4)とりまとめ(10分)

PIANC：Eric Van den Eede 会長
- (5)閉会挨拶(5分)

JICA：岡崎有二 上級審議役

7. 国際航路協会（P I A N C）について

港湾・航路等の技術的課題に関する調査研究、開発途上国への技術援助等幅広い活動を行う非政治的・非営利な国際機関。国連の諮問機関に指定。（本部はベルギーブリュッセルで1885年設立。現在のところ、加盟国は65ヶ国、会員数は450法人、個人会員2000名。）